

教会訴訟外裁治権の形成（12世紀）：パリ司教文書の分析

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院歴史学部門：准教授：西洋史

<https://doi.org/10.15017/16912>

出版情報：史淵. 147, pp.141-171, 2010-03-01. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

教会訴訟外裁治権の形成（12世紀）

—パリ司教文書の分析—

岡 崎 敦

はじめに

近年の西洋中世史学界において、私文書、あるいは私的な法行為に関する関心の高まりが、さまざまな領域で確認できるように思われる。中世初期から紀元千年前後にかけては、人類学や社会学の影響のもとに在地の社会構造の再検討が進む一方、同時期のリテラシー能力の再評価はあらためて私文書への関心を強めている¹。他方、中世の公証人については、ここ数年、近世を視野に入れつつ、研究集会やモノグラフィー、学界動向論文が相次いで公表された²。これらの諸研究はいずれも、私文書や私的な法行為をめぐる社会関係に焦点をあて、公証人や書記の社会的存在形態、社会秩序や公権力との関係、私的な法行為管理技術の発展など、多様な諸問題にアプローチしている。なかでも、2003年にパリで開かれた「負債と裁判官」をテーマとする研究集会では、私的な法行為を管理、保証する当局（ここでは裁判所）の問題が正面から取り上げられた点で、特別な注目に値する³。そこでは、いわゆる訴訟外裁治権 *jurisdiction gracieuse* が、訴訟裁判 *jurisdiction contentieuse* とならんで検討されているが、この問題は、従来必ずしも多くの研究の対象とはなっていないように見えるからである。

訴訟外裁治権とは、公的とみなされる主体が、私人間の私的な法行為の効力を保証するもので、その形式はさまざまである。制度史上の概観によれば、12世紀以降のローマ法の復活他の動きのなか、法行為の文書化が進み、その効力の由来があらためて俎上にのせられる過程で、南の地方の公証人に対して、北

の地方では、教会、君主、都市等が関与する制度として現れたものとされている⁴。なかでも司教区判事 official は、13世紀初めのその成立とともに、もっとも早くこの制度を整える一方、ここで提示されたモデルが、印章付き文書の付与という形式のもとで、王やその他の俗権によってその後模倣されたとみなされているが、個別研究は必ずしも多くない⁵。

以上の研究状況にあつて、教会訴訟外裁判権の形成過程に関して、議論を新たな領域へと導いたのがギョジャンンであった。彼は、ボーヴェ司教座を対象として、司教区判事の形成を12世紀末にさかのぼらせるとともに、12世紀にすでに、司教文書をはじめとする司教座教会の文書が、第三者の私的な法行為を告示する内容を多く含んでいることを指摘した上で、司教区判事文書は、前代の司教文書の発展の上で理解されねばならないことを強調したのである⁶。ギョジャンンの研究を受けて、私はかつて、パリ司教座教会を対象に同様の作業を行い、12世紀後半のパリ司教文書もまた、13世紀の司教区判事による訴訟外裁判権文書を実質的に準備していたことを論証したことがある⁷。そこでは、主として特徴的な書式の整備過程を追跡しながら、パリ司教告示文書形式の画期となる段階をいくつか提示し、文書形式の面から制度の確立過程を検討した。同時に、12世紀後半の告示文書に先立って、12世紀前半の司教文書が、第三者の法行為の確認を多く含んでいること、そこにはときに非常に多くの共同宣誓人、証人が言及されており、この特徴は、多かれ少なかれ12世紀いっぱいには継続することを指摘した。言葉をかえていうなら、12世紀後半に整備される「職権（印章）による当局による保証文書」発給態勢の整備は、ただちに在地の人間関係による保証にとってかわったわけではないと考えられる（文書への証人他の言及自体は、13世紀初めにいっせいに消える）。ここからは、当然ながら、12世紀後半のパリ司教による他者の法行為の告示の社会的意義という検討課題が現れる。他方、司教による第三者の私的な法行為の保証が、制度的にはどのようなかたちで実施されていたのかについても、十分な検討を加えるだけの準備がなかった。

本稿では、前稿につづけて、パリ司教による第三者の私的な法行為の保証という制度の形成過程にアプローチするが、今回は、12世紀のパリ司教による告示が、どのような性格の法行為を対象としていたのかを主として検討したい。同時に、訴訟外裁治権をパリ司教側がどのように行使し得ていたのかについても検討課題とする。具体的作業は、史料状況に即してやや限定的なものとならざるをえない。ここでは、12世紀のパリ司教文書から告示形式の文書を網羅的に抽出した上で、司教による告示行為の対象（年代、対象物件の地理的性格、法行為の内容）、関係者（法行為の主体、受益者）、訴訟外裁治権の実施システム（法行為・文書化の場所、司教代理の言及）の諸点を検討する。この作業を通じて、当該時期における、パリ司教の訴訟外裁治権行使の社会的意義と具体的運用の一端に接近することを期待している。在地社会と司教との関係をめぐって、この時期何が生じていたのかを研究するためには多面的な視角が必要であるが、ここでは、司教文書からかいま見えることの検討に限定したい。

検討に入る前に、1200年以前のパリ司教文書について、簡単に説明を加えておきたい。北フランスの司教文書については、近年、史料刊行と個別研究が急速に進みつつあるが、そこでは、共通した特徴として、以下の点が指摘できる。すなわち、11世紀から12世紀初めまでの大半の司教文書が、修道院をはじめとする在地の教会機関への altare 譲渡文書であり、これはその後こつ然と姿を消す⁸。パリ司教文書に関しては、私自身が、9世紀から13世紀初頭までを総覧した研究を続行中だが、これまでの検討の結果、以下の諸点が明らかとなっている。第一に、1120年代の altare 譲渡文書の消滅は、高度な定式性を維持した固有の文書形式の放棄と連動していたこと、第二に、12世紀中葉の文書は、内容、形式ともやや雑多な性格を帯びていること、第三に、おおよそ1160年頃から、パリ司教文書形式は、あらたな簡素化された形式に統一される一方で、その内容は、伝統的な譲渡、確認とならんで、あるいはそれを凌駕するように、第三者の法行為の告示、あるいは紛争調停が増加することである⁹。

ここで対象となる告示文書は、全部で205通を数える¹⁰。先稿で言及したよ

うに、告示形式をとる最も古いパリ司教文書は1138年頃のものであるが、ここでは法行為が3人称で語られ、1人称の措置部が存在しない形式が明確とはいえ、古典的な訴訟外裁判権文書の特徴づけるローマ法に由来する文言はいまだ登場しない[1]¹¹。パリ司教告示文書が、質量ともに整備されていくのは1160年以降であり、12世紀末までほぼ一貫して増加の一途をたどるとともに、紛争調停文書とならび、司教文書の内容の中核を構成することになる¹²。告示の対象となる法行為は、そのすべてが譲渡、あるいは売却である。この両者の区別は、形式上明確とはいえないため、ここではこれ以上の検討は行わない。

1. 告示文書の対象

パリ司教告示文書は、どのような物件を対象に発給されているのだろうか。

205通の告示文書には、法行為の対象として255件が言及されている。ここで示されている地名に関して、現在地名に同定出来ない12箇所¹³をのぞく他の地点を司教区ごとに整理すると、そのほとんどすべてがパリ司教区に位置することが確認される。いくつか確認される例外、すなわち他の司教区所在地に関しては、年代、受益者その他の要素との間に何らかの強い関連を認めることができない¹⁴。パリ司教による告示文書の発給対象は、基本的にパリ司教区所在の物件を対象とし続けていたとみなすことができる。

それでは、圧倒的多数を占めるパリ司教区内の所在地とは、どのような場所なのであろうか。特定の地点が領主領を構成していたとしても、その地の優越的な領主が誰なのかを特定することは、少なくとも12世紀に関しては必ずしも容易ではない。ここでは、パリ司教区については、13世紀初めの最古のプイエを活用して¹⁵、当該小教区のパトロン（小教区司祭の推薦権を核とし、他の教会に関する諸権利・特権を有する者）を同定することとした¹⁶。

比較的多く確認されるパトロンを列挙すると、以下のとおりである。

サンス大司教：2 地点¹⁷

パリ司教座教会参事会：5 地点¹⁸

サン＝マルタン＝デ＝シャン修道院：7 地点¹⁹

サン＝ヴィクトル律修参事会教会：5 地点²⁰

ドゥイユ修道院：4 地点²¹

リュザルシュ修道院：4 地点²²

パリ司教：40地点²³

その他2 地点以下のパトロン数：31²⁴

ここからは、いくつかの指摘が可能である。第一に、パリ司教がパトロンとして現れる教会の所領が他を圧して多く確認される。しかしながら、第二に、その他のパトロンも総数ではパリ司教を上まわり、かつパトロン自体は非常に多様である。以上の二点について、年代的な特徴を確認することができない。

パトロンは、小教区司祭の推薦権を俗人から排除する動きが進行していた当時において、当然ながら、そのほとんどが教会人、教会機関であり、在地の領主社会秩序をそのまま反映するわけではもちろんない。他方、後に検討するが、ここで確認されるパトロンは、受益者と関係する可能性があり、この場合には、史料の伝来状況が影響を与える。また、サン＝ドニ、サン＝ジェルマン＝デ＝プレ等の伝統ある修道院に関しては、そもそもパリ司教文書数自体が多くない²⁵。解釈は微妙であるが、伝来状況を加味して考えても、パリ司教による告示は、パリ司教自身が直接影響下においている教会の所在地を中心としながらも、司教区全体にわたってかなり広範に展開していると、とりあえずはみなすことができる。

それでは、告示の対象となった諸権利はどのような性格のものであろうか。煩をいとわず列举すると、以下のとおりである²⁶。

かまど収入：1 例（〔30〕）

教会：1例 ([1])

両替商：1例 ([24])

シャンパール、プレカリア契約：3例 ([28] [150] [173])

ホスピテス：6例 ([1] [28] [58] [107] [169] [178])

グランギア：7例 ([28] [29] [75] [136] [146] [181] [182])

採草地：7例 ([23] [48] [67] [104] [113] [124] [159])

ブドウ酒およびブドウ絞り権：9例 ([15] [35] [45] [55] [80] [81] [120] [138]
[141] [183])

水車 (からの収益を含む)：12例 ([7] [14] [45] [48] [49] [69] [110] [133] [175]
[185] [190] [195])

森 (からの収益を含む)：17例 ([6] [23] [26] [28] [44] [46] [47] [57] [79] [86]
[92] [102] [121] [150] [174] [180])

穀物：23例 ([3] [6] [7] [8] [31] [45] [55] [63] [74] [79] [110] [114] [120] [122]
[166] [183] [185] [192] [193] [195])

家 (からの収益を含む)：24例 ([9] [20] [34] [48] [49] [51] [59] [75] [78] [85]
[89] [98] [100] [103] [112] [113] [116] [126] [134] [145] [161] [162] [199] [204])

ブドウ畑：28例 ([10] [16] [17] [27] [33] [34] [35] [50] [58] [62] [73] [77] [79]
[82] [95] [99] [118] [126] [128] [129] [139] [140] [143] [148] [149] [156] [177]
[179])

サンス (物件に関わらずすべての言及)：36例 ([2] [9] [11] [22] [28] [35] [43]
[49] [58] [63] [73] [75] [84] [99] [107] [111] [115] [123] [127] [129] [143] [144]
[148] [150] [157] [162] [165] [167] [176] [178] [186] [195] [196] [203])

土地：55例 ([2] [4] [5] [19] [23] [32] [38] [43] [44] [46] [51] [56] [57] [58] [64]
[65] [67] [68] [70] [72] [74] [96] [97] [101] [102] [108] [109] [121] [125] [135]
[139] [140] [144] [147] [153] [154] [155] [157] [163] [172] [176] [179] [184] [187]
[188] [189] [198] [201] [203] [205])

デキマ：83例 ([1] [3] [5] [8] [12] [13] [14] [21] [22] [25] [28] [29] [36] [37] [39]
[40] [41] [42] [52] [53] [54] [55] [66] [71] [72] [74] [74] [76] [79] [88] [90] [91]

[93] [102] [106] [114] [117] [119] [120] [122] [130] [131] [132] [136] [137] [143]
 [150] [151] [152] [158] [160] [168] [169] [170] [171] [183] [192] [193] [194] [197]
 [200] [202])

その他（特定できない諸権利、収入、財産）：15例（[1] [18] [29] [60] [61] [83]
 [87] [94] [105] [164] [191]）

以上のように、デキマの例が多いとはいえ、教会的なものとは言い難い雑多な領主的諸権利に関する法行為が、パリ司教の告示の対象となっている。また、デキマに限定しても、これが特に年代的な傾向性を示すわけでもない。

以上の検討から、以下の諸点を指摘することができる。

第一に、パリ司教による告示行為は、原則的にはパリ司教区に所在する物件が対象であった。第二に、これらの物件が所在する場所は、パリ司教自身がパトロンとして現れる小教区であることが多い。ただし、その他の場所も総数ではこれを上回り、パトロンも多様である。第三に、諸権利の対象については、デキマが比較的多いとはいえ、むしろ領主的諸権利が多数を占めると考えられる²⁷。最後に、これらの諸特徴には、年代的に傾向性が感じられない。すなわち、12世紀半ばに史料上出現したパリ司教の告示行為は、領主的諸権利をもっぱら対象とし、かつ、この特徴は、その後を通じて変化した形跡はないのである。

2. 告示文書の関係者

パリ司教の告示行為に関係した人間たちとは、どのような者たちであったのだろうか。すでに述べたように、12世紀のパリ司教文書には、法行為の主体等の他にも、共同宣誓人や証人が大量に出現し、その詳細な分析は、特定法行為をめぐる人間関係を浮き彫りにするが、ここでの検討は、法行為の主体、および受益者に限定したい。さしあたりは、パリ司教による告示行為の性格の吟味が関心の中心にあるからである。

はじめに、告示が対象とする法行為の主体を検討しよう。情報を整理すると、以下のとおりである。

修道院長：1例（[49]）
修道院：4例（[9] [54] [82] [147]）
参事会員：5名（[17] [33] [68] [78] [142]）
聖職者：1名（[32]）
小教区司祭：3例（[50] [177] [181]）
参事会教会長：1例（[156]）
王妃：1名（[49]）
参事会教会：2例（[53] [80]）
中小俗人：218例（他のすべて）

以上のように、パリ司教が告示した法行為の主体の圧倒的多数は俗人であり、そのほとんどは、公的あるいはその系譜を引くような肩書きを一切持たない人物である。おそらく在地の中小領主、あるいは都市民とみなされるが、この両者の区別は、多くは、物件の所在地や性格、受益者などから推測されるだけで、厳密に確定することが困難なので、ここでは、一括して中小の俗人として扱った。

第二の検討課題は、受益者である。関係の情報を整理すると、以下のとおりである。

アチス修道院：1通（[51]）
イエール修道院：21通（[5] [6] [7] [13] [19] [21] [28] [29] [58] [63] [79] [88] [108] [115] [127] [190] [191] [192] [193] [194] [195]）
ヴァル＝ノートル＝ダム修道院：10通（[86] [97] [128] [135] [149] [155] [186] [187] [188] [205]）

ヴォルイサン教会：1通（[18]）

ヴォー＝ド＝セルネイ修道院：6通（[23] [27] [34] [62] [175] [189]）

ヴァンセンヌ教会：1通（[156]）

オート＝ブリュイエール教会：1通（[8]）

エリヴォー修道院：10通（[36] [74] [75] [94] [95] [102] [117] [121] [179]
[180]）

救護騎士団：9通（[32] [41] [42] [67] [71] [73] [77] [90] [137]）

グルネイ修道院：2通（[14] [76]）

コルバイユ救貧院：1通（[65]）

コルバイユ教会：1通（[176]）

サン＝ヴィクトル教会：47通（[1] [10] [17] [21] [28] [29] [33] [38] [44] [46]
[59] [60] [64] [78] [83] [85] [87] [89] [92] [100] [101] [103] [104] [106] [107]
[109] [112] [113] [120] [123] [125] [126] [131] [132] [139] [140] [157] [158] [161]
[162] [164] [169] [182] [183] [184] [185] [204]）

サン＝クルー教会：2通（[160] [170]）

サン＝ドニ修道院：2通（[105] [122]）

サン＝ポール教会：2通（[96] [122]）

サン＝マルタン＝デ＝シャン修道院：9通（[15] [16] [20] [37] [66] [129]
[141] [150] [151]）

サン＝モール＝デ＝フォッセ修道院：1通（[136]）

サン＝ラザール教会：14通（[3] [4] [9] [11] [22] [24] [30] [31] [45] [72] [91]
[147] [154] [201]）

サン＝ルー＝デスラン教会：1通（[12]）

サント＝ジュヌヴィエーヴ教会：2通（[81] [138]）

シャリス修道院：4通（[153] [163] [172] [198]）

シャンポー教会：1通（[25]）

小教区司祭：1通（[48]）

小教区民：1通（[80]）

聖堂騎士団：2通（[61] [69]）
俗人：2通（[50] [145]）
ソワソン司教：7通（[39] [44] [46] [47] [55] [56] [57]）
ノートル＝ダム＝デ＝シャン教会：2通（[43] [181]）
パリ・オテル＝デュー：13通（[26] [110] [114] [134] [143] [146] [148] [165]
[166] [167] [196] [199] [203]）
パリ教会：5通（[33] [142] [168] [200]）
パリ参事会員：2通（[124] [202]）
パリ司教：7通（[35] [70] [84] [111] [133] [159] [178]）
パリ市内諸教会：16通（[2] [40] [52] [68] [82] [93] [98] [99] [116] [119] [144]
[152] [171] [173] [177] [197]）
ムッシー教会：1通（[130]）
モンマルトル修道院：2通（[49] [118]）
リヴリ教会：1通（[174]）
リュザルシュ修道院：2通（[53] [54]）

以上からは、以下の諸点を指摘することができる。

第一に、受益者の大半は、パリあるいはパリ近郊の教会機関である。第二に、受益者はかなり多様であるように見える。第三に、特定の教会機関への偏りの解釈である。受益者は、文書を伝来させる主体であることが多く、したがって、史料の伝来状況が受益者に関する情報を直接左右することになる。史料伝来が良好な教会は、結果としてパリ司教文書もよく残しているともいえるが、逆のケースの評価は容易ではない。パリ・オテル＝デュー、サン＝マルタン＝デ＝シャン、ヴァール＝ノートル＝ダム、イエール等については、文書伝来状況が良好であることが大きく影響していると思われるが、サン＝ヴィクトルに関しては、これに加えて、いくつか念頭に置くべき点がある。一つは、12世紀後半において、この律修参事会は、パリ司教ととりわけ緊密な関係を保っていることである。パリ司教の礼拝堂付き司祭を初めとして、司教側近の何人かは恒常的

にこの教会からリクルートされていたほか、司教モーリスはこの教会内にみずからの館を持っていた²⁸。二つ目は、この教会が、当該時期を通じて、財産の集積をはかり続けており、その様子が、丁寧に管理されていたオリジナル文書や、1240年のカルチュレールをはじめとする非常に伝来が良好な資料群のなかで、確認されることである²⁹。

受益者に関しては、いま一点、当該財産、諸権利の所在地のパトロンとの関係を検討することができる。結論から言えば、受益者とパトロンが一致する諸権利物件は、僅か38件に過ぎず、圧倒的多数の物件は、当該小教区のパトロンとは異なる者の手に渡っていることになる。この点は、一件奇異に見えるかもしれないが、この時期の権利移動の対象は細分化された諸権利、収入であることが多く、裁判権はもちろん、所領全体の移動などはもはや問題になってはいない。12世紀中葉以降の司教の告示文書は、すでに出来上がった小教区、所領秩序を前提とした上で行われる、微細な諸権利の移動を対象とするものであった。

以上、本章の検討結果をまとめると、以下のとおりである。

パリ司教の告示文書は、おそらくはパリ、あるいはパリ周辺の中小俗人による、同じくパリ、あるいはパリ周辺の教会機関に対する、微細な諸権利の譲渡、売却を対象とするものであった。

3. 告示行為の実施

古典的な教会訴訟外裁治権の本質は、法行為の主体が、司教区判事の面前に出頭して *in presentia nostra constitutus*、誓約を行う *fide interposita firmavit*³⁰ ことにある。告示文書の初出である1138年文書にはすでに、法行為叙述の箇所ではないにせよ、法行為の主体の誓約に関する言及が確認されるが、この文書はこれ以外にも興味深い情報を私たちにもたらしてくれる。この文書には、以下のような叙述が見られるのである。

これが行われた四日後、前述したユーグの息子たちは、彼らが余に誓約したように、ユーグによって派遣されて、パリにやってくるように。そして、彼らの父が前述の寄進について行った事柄を、かりに余が不在であったなら、以下の証人たちの前で、大助祭ベルナルの面前で承認するように³¹。

ここから、原則的には司教の面前で行われるべき法行為が、場合によっては、その代理の面前でもなされたことがかいま見られるとともに、当初の段階から、誓約とその受入がこの制度の根幹にあることが明確に認識されていたらしいことも確認することができる。

ところで、司教の代理への言及は、当該時期、全部で10通の文書に確認することができる。以下、重要な文言を含む例を検討したい。

同様の状況が確認される次の文書は、1143年から54年までの間の文書であるが、そこでは、さらに明確な言及が見られる。

前述のパイヤンは、それ（デキマ）を余のデカヌスであるニコラの手に戻し、ニコラは、余の代理として修道院長アデマールへ所有権移転を行った³²。

主席司祭doyen de chrétientéであったと推測されるニコラは、ここでは、司教の代理として、俗人のデキマ寄進を介在しているわけである³³。

次の例は、年代的には約30年の空白を置いた1182年の文書である。

ユーグ・ド・ショーモンの姉妹ジャンヌは、当該売却を承認した。それは、エポーヌにおいて、ノートル＝ダムノートル＝ダムの参事会員ジョフロワ・ド・ヴィリの面前においてであった。余は、彼を、余の代理として、この審理のために派遣したのであった³⁴。

この文書に現れる「司教の代理として派遣した」という文言は、この後、一つの書式として定着していく。

他方、1189年の文書は、いま一つ別の書式を示している。

ジャンの妻アリシア、および彼の姉妹エリザベトは、当該売却を承認し、誠実を保証して誓約した。それは、余の側から、このことがなされるべきために派遣された、モントルイユの余の主席司祭ベルナルの手のなかになかった³⁵。

先稿で指摘したように、「司教の手のなかでの in manu episocoi」誓約受入が、当該時期の告示文書の一つの重要な書式であることを想起すれば³⁶、この文言は、司教の代理を直接表現していることは確実である。

ところで、司教の代理として現れる者たちは、どのような者たちなのであろうか。10文書で言及される人間を整理すると、以下のとおりである。

大助祭：1例（[1]）

主席司祭 decanus, archipresbiter：6例（[12] [119] [144] [151] [157] [158]）

パリ参事会員：2例（[85] [158]）

当該小教区の司祭：1例（[109]）

所領役人 prepositus, major：2例（[144] [158]）

司教の聖具係 capicerius：1例（[164]）

用例は少ないが、パリ司教が、一方ではみずからの周囲の聖職者を活用しながらも、当初から、比較的多く主席司祭を利用していることが注目される。

他方、この10通の文書は、年代的に、1138年、1143-54年を除けば、1182年以降に集中している。12世紀の第三四半世紀の空白を説明することは容易ではないが、司教の代理の派遣はそもそも、司教自身の立ち会いが困難な状況を

前提とすると考えられることから、そのような状況下においても機能する制度が、12世紀末に至ってようやく整備されたとみなすこともできる。

ところで、司教の立ち会いが困難な状況とはどのような状況であろうか。この10通においては、複数の誓約が言及され、そのうちパリ以外の場での誓約に関して、代理が派遣されているケースが多い（[85] [109] [144] [151] [157] [158] [164]）。

それでは、そもそもパリ司教告示文書に言及される、法行為の告示行為（＝法行為の主体、ならびに関係者の誓約と、司教側のその受入）は、一般的にはどこで行われていたのでしょうか。情報を整理すると、以下のとおりである。

パリのみ：30通（[1] [41] [42] [43] [50] [53] [54] [67] [68] [69] [73] [79] [88] [97] [99] [110] [120] [127] [129] [133] [145] [151] [152] [157] [166] [167] [168] [175] [176]）

場所が特定されたパリ司教座教会関連施設のどこか：34通（[22] [26] [27] [30] [31] [39] [44] [48] [55] [59] [70] [77] [78] [83] [89] [98] [103] [105] [106] [111] [116] [121] [122] [123] [124] [135] [136] [142] [143] [144] [146] [147] [158] [165] [168] [196]）

サン＝ヴィクトル教会：27通（[10] [44] [82] [85] [87] [90] [91] [100] [101] [104] [107] [112] [113] [117] [118] [119] [125] [126] [130] [131] [132] [148] [158] [161] [162] [164] [169] [171]）

パリその他：3通 [44] [45] [166]

サン＝クルー：9通（[35] [60] [64] [85] [109] [159] [160] [164] [170]）

ヴィトリ：7通（[23] [34] [52] [61] [84] [93] [137]）

モワシ：7通（[25] [40] [52] [127] [133] [158]）

モントルイユ：1通（[102]）

その他：17通（[39] [51] [71] [76] [85] [86] [92] [94] [95] [98] [99] [109] [115] [128] [144] [151] [157] [174] [175]）

文書に記載される地名が、文書発給場所か、法行為の場所なのかの特定は必ずしも簡単ではないが、この時期のパリ司教文書の大半は、パリ司教側の作成であることが推定されることを念頭に置けば³⁷、パリ以外の場合には、法行為の場所とみなすことが自然な想定と思われる。また、パリであっても、具体的な場所が特定されていれば（司教の館など）、むしろ法行為の場を想定すべきであろう。

ここからは、いくつかの点を指摘することができる。

第一に、パリ司教座教会、および1163年から30年以上にわたって司教位にあったモーリス・ド・シュリの館を備えていたサン＝ヴィクトル教会への言及が多数に及ぶ。パリが、司教統治の座としての性格を強く帯びるとともに、パリおよびその近在の教会が受益者として多いことも、その理由として挙げられるであろう。第二に、しかしながら、パリ以外の場所でも、相当数の法行為が行われていたことがかいま見られる。12世紀における司教巡察、あるいは移動法廷の史料上の直接の言及は皆無だが、告示文書の発給場所の検討からは、パリ司教が、当該時期を通じて、かなり司教区のなかを移動していたことが推測されるのである。この際、重要なのは、サン＝クルーのような司教の館が所在する拠点だけでなく³⁸、モワシやモントルイユのような主席司祭の座においても、法行為が行われている点であろう。モントルイユにおいては、主席司祭ベルナルの家が言及されている文書が一つある³⁹。

以上の検討から、以下の諸点を指摘することができる。

第一に、パリ司教の告示行為（誓約の受け入れ）は、主として、パリで行われていた。第二に、しかしながら、一定程度において、パリ以外の場所においても司教は誓約を受けて入れており、パリ司教は、パリ司教区内を一定の頻度で巡回していたのではないと思われる。この際、重要な拠点となったのは、サン＝クルーのような司教自身の従属下にある教会の所在地、および司教区行政の要の一つである主席司祭の座であったと推測される。第三に、司教は、誓約受け入れ行為については、このために特に代理を派遣することがあった。代理

としてたてられた者としては、司教側近聖職者のほか、主席司祭の活躍が目立つ。代理については、史料上の問題はあがるが、1180年代以後に情報が集中し、かつ文書中の文言も形式化している。

おわりに

以上の検討から、本稿の結論をまとめると、以下のとおりである。

1. パリ司教による第三者の法行為の告示行為は、史料上は12世紀半ばに出現するが、その対象となる物件、諸権利は、基本的にはパリ司教区内に位置する場所に存在した。その場所の性格については、パリ司教自身がパトロンとして現れる小教区が多いが、総数としてこれを上回るその他のパトロンが確認され、その顔ぶれも多様である。法行為の内容となるのは譲渡や売却だが、その対象は、デキマが比較的多いとはいえ、全般的には領主的諸権利がほとんどをしめるといえる。

以上の検討結果から、以下のような議論が可能と思われる。まず、12世紀のパリ司教の告示行為は、その史料上の出現時においてすでに、司教の周囲にめぐらされた固有の社会関係のゆえというよりも、司教区の長としての活動の一環として実施されていたと考えるべきであるように思われる。他方、にもかかわらず、その対象となる諸権利の性格が教會的なものとは言い難いことは、司教による告示行為は、その物的対象の理由 *ratio materiae* によるのではなく、司教の法秩序維持に関わるいわばその公共的性格（＝権威）のゆえとみなすことができる。13世紀以降の教会訴訟外裁治権は、他の公的諸権威のモデルとなるとともに、これらと競合関係にあったが、司教区判事の誕生に先立つ12世紀の司教による告示行為においても、事実上あらゆる法行為がその対象となっていたと思われるのである。

2. 12世紀のパリ司教による告示は、パリ、およびパリ周辺の中小俗人による、同じくパリ、およびパリ周辺の諸教会機関に対する、細分化された諸権利

の譲渡、売却を対象とするものであった。言葉をかえていうなら、王や領邦君主、有力領主による、諸権力に関わる重要な法行為を対象とするものではまっただけでなく、訴訟外裁判権という制度は、おそらくはその当初から、このような性格のものとして形成されたと思われる。

このような制度を生み出した状況として当然想定されるのは、私人間の契約を保証するシステムの再編であろう。これは、おそらく、それまでそのほとんどが当事者、関係者の間で律せられていた契約の効力の確保のために、上級権威の介入を要求する事情が在地の社会のなかに生まれたことを背景とするものと推測される。そして、そのために頼りにされたのが、まず司教権威であったことの意義は大きい。おそらく、文書化されなかった司教による認証行為（誓約の受入）はさらに数多かったに違いない。このことは逆に、12世紀を通じての司教権威の強まり、および司教区統治の制度化の進展の由来を再検討することにもつながる。二項対立図式の強調は不毛ではあるが、司教の権威の再構築は、改革教皇座のような高みから降り下ってきたのではなく、在地の社会関係の再編から要請されたのではないだろうか、と考えることもできよう。

3. パリ司教による告示制度は、12世紀前半に初出するが、これはおそらくは、同時期の確認行為の延長として生成した。つまり12世紀の司教たちは、おそらくは「下からの要請」に応じて、私的な法行為の保証を繰り返すなかで、同世紀後半以降になって、これをローマ法にのっとった法形式として整備化していったと考えられる。パリ司教にあっては、これは、パリにおける司教自身による誓約の受け入れという形式をとり、その延長上で、パリ以外への巡行の際にも、これを行うようになったものと推測される。さらに、誓約の受け入れという本質的儀礼に司教自身が介入出来ない場合には、特にこのために代理を派遣する態勢を整え、同時に、この代理制度を、文書中でも定式表現として規格化していく。

12世紀の司教区統治の具体的あり方については、ほとんど直接的な史料情報がないなか、訴訟外裁判権の行使に関してかいま見られる司教の具体的活動

は、この点で非常に貴重な情報といえる。本稿の検討からは、少なくとも12世紀後半のパリ司教は、司教区内をみずから巡回するほか、小教区を在地レベルでたばねる主席司祭の活用をはかっていることが検証された。このことは、位置づけが難しいこれらの制度が（司教巡察、主席司祭制度）、少なくともこの時期には司教区統治における重要な機構として機能していた可能性を示唆する。また、司教統治との関係で言えば、12世紀後半の司教文書の大半を占めるのが、告示文書とともに、紛争調停であったことの重要性も無視出来ない。司教による紛争調停が、在地社会の再編、および司教統治の両面とどのように関わるのかについて、本稿と同様の検討が望まれる。

本稿は、限られた材料による、限られた側面からの検討を行ったものにすぎない。在地社会の変容の問題に、訴訟外裁治権からアプローチする場合には、当該法行為をめぐる人間集団や諸権利関係の総体を検討する必要があるほか、教会以外の諸権威の問題も視野に含めるべきであろう。課題は多いが、すべては今後に委ねねばならない。

注

- 1 cf. Les transferts patrimoniaux en Europe occidentale, VIII^e- X^e siècle (I). Actes du Colloque tenu à Rome les 6, 7 et 8 mai 1999, dans *Mélanges de l'École française de Rome*, 111-2, 1999; BOUGARD, F., FELLER, L. et LE JAN, R., éd., *Dots et douaires dans le haut Moyen Âge. Actes du colloque réuni à Lille et à Valenciennes les 2, 3 et 4 mars 2000*, Rome, 2002; BOUGARD, F., LA ROCCA, C. et LE JAN, R., éd., *Sauver son âme et se perpétuer: transmission du patrimoine et mémoire au haut Moyen Âge*, Rome, 2005; FELLER, L. et WICKHAM, C., éd., *Le marché de la terre au Moyen Âge*, Rome, 2005; TOCK, B.-M., *Scribes, souscripteurs et témoins dans les actes privés en France (VII^e - début XII^e siècle)*, Turnhout, 2005; REHART, P., HEIDECKER, K. und ZELLER, B., hg., *Die Privaturkunden der Karolingerzeit*, Dietikon-Zürich, 2009.
- 2 cf. FAGGION, L., MAILLOUX, A. et VERDON, L., éd., *Le notaire entre métier et espace public en Europe, VIII^e- XVIII^e siècles*, Aix-en-Provence, 2008; BIDOT-GERMA, D., *Un notariat médiéval. Droit, pouvoir et société en Béarn*, Toulouse, 2008; SARA-

- ZIN, J.-Y., L'historien et le notaire. Acquis et perspectives de l'étude des actes privés de la France moderne, dans *Bibliothèque de l'Ecole des Chartes*, 160, 2002, pp.229-270.
- 3 CLAUSTRÉ, J., éd., *La dette et le juge. Juridiction gracieuse et juridiction contentieuse du XIII^e au XV^e siècle (France, Italie, Espagne, Angleterre, Empire)*, Paris, 2006.
- 4 cf. DE BOUARD, A., *Etudes de diplomatique sur les actes des notaires du Châtelet de Paris*, Paris, 1910; Id., *Manuel de diplomatique française et pontificale. t. II. L'acte privé*, Paris, 1948; CAROLUS-BARRE, L., L'organisation de la juridiction gracieuse à Paris, dans le dernier tiers du XIII^e siècle. L'Officialité et le Châtelet, dans *Le Moyen Age*, 69, 1963, pp.417-435; BAUTIER, R.-H., L'authentification des actes privés dans la France médiévale. Notariat public et juridiction gracieuse, dans *Notariado público y documento privado, de los orígenes al siglo XIV. Actas del VII congreso internacional de diplomática, Valencia, 1986*, Valencia, 1989, pp.701-772.
- 5 フルニエの司教区判事に関する古典的研究においても、付録として掲載された司教区判事文書の形式に関する各論を除いては、訴訟外裁判権に関する言及は驚くほど少ない。FOURNIER, P., *Les officialités au Moyen Age. Etude sur l'organisation, la compétence et la procédure des tribunaux ecclésiastiques ordinaires en France, de 1180 à 1328*, Paris, 1880. cf. Id., Etude diplomatique sur les actes passés devant les officialités au XIII^e siècle, dans *Bibliothèque de l'Ecole des Chartes*, 40, 1879, pp.26-331.
- 6 GUYOTJEANNIN, O., Juridiction gracieuse ecclésiastique et naissance de l'officialité à Beauvais (1175-1220), dans *A propos des actes d'évêques. Hommages à L. Fossier*, éd. par M. PARISSÉ, Nancy, 1991, pp.295-310.
- 7 岡崎敦「パリ司教と教会訴訟外事項裁判権（12世紀）」、『七隈史学』4号、2003年、1-17頁。岡崎敦「パリ司教座教会参事会の印章（12世紀）」、『西洋史学論集』39号、2001年、7頁も参照のこと。
- 8 司教文書の刊行については、TOCK, B.-M., éd., *Les chartes des évêques d'Arras (1093-1203)*, Paris, 1991; DUFOUR-MALBEZIN, A., éd., *Actes des évêques de Laon : des origines à 1151*, Paris, 2001; VAN MINGROOT, E., éd., *Les chartes de Gérard Ier, Liébert et Gérard II, évêques de Cambrai et d'Arras, comtes du Cambrésis (1012-1092/93)*, Leuven, 2005. 司教文書については、BRUNEL, G., Chartes et chancelleries épiscopales du Nord de la France au XI^e siècle, dans *A propos des actes d'évêques. Hommages à L. Fossier*, éd. par M. PARISSÉ, Nancy, 1991, pp.227-44; HAIDACHER, C. et KOFLER, W., éd., *Die Diplomatie der Bischofsurkunde vor 1250/La diplomatie épiscopale avant 1250. Referate zum VIII. Internationalen Kongress für Diplomatie,*

Innsbruck, 27. September – 3. Oktober 1993, Innsbruck, 1995. Altare 讓渡司教文書、および関連の問題については、DUVOSQUEL, J.-M., Les chartes de donation d'autels émanant des évêques de Cambrai aux XI^e-XII^e siècles éclairées par les obituaires. A propos d'un usage grégorien de la chancellerie épiscopale, dans *Hommages à la Wallonie. Mélanges d'histoire, de littéraire et de philologie wallonnes offerts à Maurice A. Arnould et Pierre Ruelle*, éd. par H. HASQUIN, Bruxelles, 1981, pp.147-63; 岡崎敦「中世盛期パリ地方における修道院の小教区所有と司教裁治権」、『史学雑誌』104編7号、1995年、37-73頁; TOCK, B.-M., Altare dans les chartes françaises antérieures à 1121, dans *Roma, magistra mundi. Itineraria culturae medievalis. Mélanges offerts au Père L.E. Boyle à l'occasion de son 75e anniversaire*, éd. par J. HAMASSE, Louvain-la-Neuve, 1998, pp.901-926; DEMOUY, P., *Genèse d'une cathédrale. Les archevêques de Reims et leur Eglise aux XI^e et XII^e siècles*, Langres, 2005, pp.223-255; FOULON, J.-H., *Église et réforme au Moyen Âge : papauté, milieux réformateurs et ecclésiologie dans les Pays de la Loire au tournant des XI^e-XII^e siècles*, Bruxelles, 2008, pp.56-64. をそれぞれ参照のこと。

- 9 以上の諸問題については、岡崎敦「パリ司教と訴訟外裁治権」、「修道院の小教区所有」の前掲二論文のほか、岡崎敦「パリ司教座教会の文書局（9-12世紀）」、『史淵』123輯、1986年、39-76頁も参照のこと。
- 10 私の史料収集は、刊行史料集のほか（岡崎敦「パリ司教座教会参事会の印章（12世紀）」、16-17頁を参照）、フランス国立文書館（パリ）および、パリ周辺の県文書館（イヴリーヌ県文書館、ヴァル＝ドワーズ県文書館、セヌ＝サン＝ドニ県文書館、エソンヌ県文書館）、フランス国立図書館（パリ）での調査に基づく。パリ司教文書については、偽文書や、遺失・言及も含めて、初出から1200年までの期間で、総計474点が確認されている。先稿との文書数の差異は、その後の史料調査による文書数の増加による。告示文書については、岡崎「パリ司教と訴訟外裁治権」、4-6頁を参照。
- 11 以下、史料参考文献は、基本的に稿末の文書リストに記された文書番号で行う。
- 12 岡崎敦「パリ司教と訴訟外裁治権」、6頁を参照。
- 13 Vicus Novus [1]; Bellus Rourus [57], [109]; Eissi [73]; Alleu [92]; Chesne Cope [108]; Mera島 [159]; Resnemolin [160], [170]; Buisson [175]; Noieraie [177]; Cheintreaus [192]; Mardeliaco [192]; Parvus Puteus [198].
- 14 アミアン司教区：1地点、Moreuil (Moreuil, ar. Montdidier, Somme), [12]; シャルトル司教区：4地点、Cressay (com. Neauphle-le-Vieux, Yvelines), [23]; Le Mesnil-le-Roi (Maisons-Laffitte, ar. Saint-Germain-en-Laye, Yvelines), [31]; Montfort-l'Amaury (Montfort-l'Amaury, ar. Rambouillet, Yvelines), [61]; Mezieres-sur-Seine (Guerville, ar. Mantes-la-Jolie, Yvelines), [190], [195]; モー司教区：3地点、Montgrolle, com.

- Crecy-la-Chapelle (Crecy-la-Chapelle, ar. Meaux, Seine-et-Marne), [45]; Claye-Souilly (Claye-Souilly, ar. Meaux, Seine-et-Marne), [200]; Liaubon (Le Pin と Chesles-Sainte-Baulteurの村の間), [76]; ルアン大司教区：3地点、Le Ruel, com. Haravilliers (Marines, ar. Pontoise, Val-d'Oise), [33]; La Hae, Ham, com. Cergy (Cergy, ar. Pontoise, Val-d'Oise), [163]; Boissy-l'Aillierie (Cergy Nord, ar. Pontoise, Val-d'Oise), [180]; サンリス司教区：2地点、Survilliers (Luzarches, ar. Montmorency, Val-d'Oise), [74]; Le Fayel (Estrés-Saint-Denis, ar. Compiègne, Oise), [135]; サンス大司教区：3地点、Villiers-en-Biere (Perthes, ar. Melun, Seine-et-Marne), [13], [98]; Boulaincourt (La Chapelle-la-Reine, ar. Fontainebleau, Seine-et-Marne), [38], [157]; Paillet, com. Ballancourt-sur-Essonne (Monnecy, ar. Evry, Essonne), [150]; ソワソン司教区：1地点、Toraille, com. Verdolot (Rebais, ar. Meaux, Seine-et-Marne), [40].
- 15 LONGNON, A., éd., *Pouillés de la province de Sens*, Paris, 1904, pp.349-59.
- 16 バリ司教区以外の小教区については、『フランス小教区・コミュニケーション辞典』で補った。*Paroisses et communes de France: dictionnaire d'histoire administrative et démographique, Région parisienne*, 1974; *Seine-et-Marne*, 1988.
- 17 Villiers-en-Biere (Perthes, ar. Melun, Seine-et-Marne): [13] [98]; Boulaincourt (La Chapelle-la-Reine, ar. Fontainebleau, Seine-et-Marne): [38] [150] [157].
- 18 Creteil (Val-de-Marne): [67]; Aulnay, com. Chatenay-Malabry (Sceaux, ar. Antony, Hauts-de-Seine): [91]; Chatenay-Malabry (Sceaux, ar. Antony, Hauts-de-Seine): [168] [173]; Bagneux (Bagneux, ar. Antony, Hauts-de-Seine): [191]; Mezieres-sur-Seine (Guerville, ar. Mantes-la-Jolie, Yvelines): [190] [195].
- 19 Chevry-Cossigny (Brie-Comte-Robert, ar. Melun, Seine-et-Marne): [4] [79]; Saint-Laurent (faubourg Saint-Martin): [11]; Fontenay-en-Parisis (Luzarches, Montmorency, Val-d'Oise): [16] [155]; Clamart (Clamart, ar. Antony, Hauts-de-Seine): [15]; Champigny-sur-Marne (Bry-sur-Marne, ar. Nogent-sur-Marne, Val-de-Marne): [32]; Orville (bois de), com. Louvres (Goussainville, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [74] [187] [188]; Survilliers (Luzarches, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [74]; Louvres (Goussainville, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [86] [153].
- 20 Senart, com. Combs-la-Ville (Brie-Comte-Robert, Melun, Seine-et-Marne): [6] [28] [29]; Athis-Mons (Athis-Mons, ar. Palaiseau, Essonne): [21] [29] [34] [51] [87] [189]; Ablon-sur-Seine (Villeneuve-le-Roi, ar. Creteil, Val-de-Marne): [27] [81] [120] [138]; Villiers-le-Bel (Villiers-le-Bel, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [28] [29] [55] [95] [137] [139] [140] [169] [179]; Vigneux-sur-Seine (Vigneux-sur-Seine, ar. Evry, Essonne): [125].
- 21 La Barre, com. Deuil-la-Barre (Enghien-les-Bains, ar. Montmorency, Val-d'Oise):

- [39]; Aubervilliers (Aubervilliers, ar. Bobigny, Seine-Saint-Denis): [44] [46] [49]; Le Blanc-Mesnil (Le Blanc-Mesnil, ar. Le Raincy, Seine-Saint-Denis): [142]; Gonesse (Gonesse, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [147] [154].
- 22 Epinay-Champlatreux (Luzarches, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [53] [54] [122]; Lassy (Luzarches, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [53] [54]; Le Plessis-Luzarches (Luzarches, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [53] [54]; Luzarches (Luzarches, ar. Montmorency, Val-d'Oise): [74].
- 23 以下、関係文書番号のみ挙げる。[1] [3] [5] [7] [8] [14] [17] [26] [33] [37] [63] [65] [66] [71] [74] [77] [79] [84] [90] [91] [93] [102] [105] [106] [107] [108] [115] [118] [123] [124] [127] [128] [130] [131] [132] [141] [143] [148] [149] [151] [152] [156] [158] [161] [163] [165] [166] [167] [174] [179] [181] [182] [185] [186] [195] [197] [200] [202].
- 24 以下、パトロン名のみを挙げる。エリヴォー修道院[36] [74] [75] [94] [102] [117] [121] [145]、エルミエール修道院 [41] [42]、グルネイ修道院[14]、コルベイユ教会 [18] [32] [127] [133] [176] [184]、コロンブ修道院[2]、コンフラン教会[97] [187]、サン＝クルー教会[35] [111]、サント＝ジュヌヴィエーヴ教会 [62] [72]、サン＝ジェルマン＝デ＝ブレ修道院 [69]、サン＝ドニ修道院 [105]、サン＝ニコラ教会 (サンリス) [194]、サン＝フロラン修道院 [56] [96]、サン＝ポール教会 [47]、サン＝マクロワル教会 [61]、サン＝マルセル教会 [40] [52] [105] [144]、サン＝モール＝デ＝フォッセ修道院 [70] [106] [136] [150]、シャージュ修道院 [200]、シェル修道院 [113]、シェネヴィエール教会 [119]、シェジ修道院 [40]、俗人 [129]、ノフィル教会 [23]、ブルグイユ修道院 [183]、ポワシ教会 [31]、マルムチエ修道院 [110]、モー司教座教会参事会長 [45]、ラニ修道院 [10] [19] [58] [195]、リヴリ教会 [49]、リヴロン修道院 [5] [58] [63] [79] [88] [193]、ル・ベック修道院 [205]、ルアン大司教 [33].
- 25 9-12世紀を通じて、両修道院のためのパリ司教文書はそれぞれ、サン＝ドニへは11通、サン＝ジェルマン＝デ＝ブレへは4通である。
- 26 以下には、諸権利の単位を掲げるが、この数字は当該諸権利が記載される文書数とは必ずしも一致しない。一つの文書に複数の諸権利が記載されることがあるからである。
- 27 12世紀において、パリ司教区のデキマは、教会的というよりもむしろ領主的諸権利として現れる。岡崎敦「12世紀パリ地方の小教区について」、『西洋史学論集』26、1989年、37-54頁を参照のこと。
- 28 岡崎敦「パリ司教座聖堂参事会の形成 (9-12世紀) —司教・参事会文書の検討—」、『史淵』122輯、1985年、149、160頁。
- 29 cf. SCHOEABEL, M., *Archiv und Besitz der Abtei St. Viktor in Paris*, Bonn, 1991.
- 30 岡崎敦「パリ司教と訴訟外裁判権」、4-5頁。
- 31 [1]: “Nec illud latere volumus quod sequenti quarta die postquam hec facta sunt, filii predicti Hugonis missi ab eo, sicut nobis promisserat, Parisius venerunt,

- et quidquid pater eorum de predicta elemosina fecerat, quia ego absens eram, in presencia magistri Bernardi archidiaconi, coram subtitulatis testibus concesserunt.”
- 32 [12]: “præfatus Paganus eam in manu Nicolai decani nostri redidit et Nicolaus vice nostra priorem Ademarum investivit.”
- 33 所有権移転、すなわち、第三者の譲渡に際して、一旦司教がこれを受け取り、あらためて受益者へと所有権移転を行う行為が、広義の訴訟外裁治権の一部であり、パリ司教文書においては、12世紀中葉のみにみられる限定された現象であることについては、岡崎敦「パリ司教と訴訟外裁治権」、7-9頁参照。
- 34 [85]: “Eandem etiam vendicionem laudavit Johanna, soror ejusdem Hugonis de Calvomonte, apud Esponiam, in presencia Gaufridi de Guiri, canonici Beate Marie, quem, vice nostra, ad hoc audendum misimus.”
- 35 [119]: “Hanc etiam venditionem Aalitia, uxor Johannis, et Elisabet, soror ejusdem, concesserunt, et juste garantie fidem prestiterunt, in manu Berneri, decani nostri de Mosterol, ad hoc agendum ex parte nostra missi.”
- 36 岡崎敦「パリ司教と訴訟外裁治権」、7頁。
- 37 岡崎敦「文書局」、62頁。
- 38 “in aula nostra” : 1173, [60]; “in domo nostra” : 1182, [85]; 1195, [160]; 1196, [170]; “in capella nostra” : 1187, [109].
- 39 “in domo Berneri decani” : 1185, [102].

パリ司教告示文書リスト

	年 代	司 教	史料レフェランス (刊本を優先)
1	[1138]	Thibaut	Arch.nat., S 2169, no 2.
2	[1140]	Thibaut	Arch.nat., M 30, no 1.
3	1143-24	Thibaut	Arch.nat., MM 210, fol.30v-31.
4	1143-24	Thibaut	Arch.nat., S 6689, no 1.
5	1143-24	Thibaut	Arch.dep.Essonnes, 63H 40, no 6.
6	1143-24	Thibaut	Arch.dep.Essonnes, 63H 48.
7	1143-24	Thibaut	Arch.nat., LL 1599B, fol.20v-21v.
8	1150	Thibaut	SGP, no 108.
9	1150c	Thibaut	CGP, no 369.
10	1152-44	Thibaut	Arch.nat., S 2160, no 19.
11	1152c	Thibaut	CGP, no 377.
12	1154-43	Thibaut	St-Leu, no 55.
13	1154-44	Thibaut	Arch.nat., L 908, no 52.
14	1157-54	Thibaut	SMC, no 351.
15	1158-44	Thibaut	SMC, no 361.
16	1158-52	Thibaut	SMC, no 364.
17	1158-44	Thibaut	Arch.nat., S 2139, no 28.
18	1158-44	Thibaut	Bibl.nat., Coll.Clairambault, 209, no 24.
19	1158-44	Thibaut	Arch.dep.Essonnes, 63H 40.
20	1158-57	Thibaut	CGP, no 403.
21	1159	Pierre	Arch.nat., L 896, no 37.
22	1160	Pierre	CGP, no 415.
23	1162	Maurice	Bibl.nat., Coll. Clairambault, 209, no 13.
24	1163	Maurice	CGP, no 434.
25	1164	Maurice	Champeaux, no 130.
26	1164	Maurice	AHD, no 2.
27	1166	Maurice	Arch.dep.Yvelines, 45H 19.
28	1166	Maurice	Arch.nat., L 896, no 38.
29	1166	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 48.

30	1167	Maurice	CGP, no 464.
31	1167	Maurice	Arch.nat., MM 210, fol.22-22v.
32	1167-1160	Maurice	Arch.nat., M 11, no 5.
33	1167 avant	Maurice	Arch.nat., L 908, no 10.
34	1168	Maurice	Arch.dep.Yvelines 45H 19.
35	1169	Maurice	CND, I, p.50-51.
36	1169	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H 3, 2e liasse.
37	1169	Maurice	Arch.nat., S 1421, s.n.
38	1169-	Maurice	Arch.nat., L 897, no 24.
39	1170	Maurice	Mortet, 13 et 14 (ind.).
40	1170	Maurice	Arch.nat., L 616, no 2.
41	1170	Maurice	Arch.nat., M 10, no 41.
42	1170	Maurice	Arch.nat., M 10, no 42.
43	1170	Maurice	CGP, no 479.
44	1170	Maurice	CGP, no 477.
45	1170	Maurice	Arch.nat., S 6676, no 13.
46	1170	Maurice	Arch.nat., S 2142, no 15.
47	1170	Maurice	Arch.nat., S 2125A, no 11.
48	1171	Maurice	CGP, no 495.
49	1171	Maurice	CGP, no 497.
50	1171	Maurice	CGP, no 504.
51	1172	Maurice	Arch.nat., L 896, no 39.
52	1172	Maurice	Arch.nat., L 616, no 3.
53	1172	Maurice	Arch.nat., L 903, no 3.
54	1172	Maurice	SMC, no 412.
55	1172	Maurice	Arch.nat., L 908, no 41.
56	1172	Maurice	Arch.nat., S 2125A, no 13.
57	1172	Maurice	Arch.nat., S 2142, no 18.
58	1172	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 40.
59	1173	Maurice	CGP, no 515.
60	1173	Maurice	Arch.nat., S 2137, no 1.

61	1173	Maurice	Arch.nat., S 5095, s.n.
62	1173	Maurice	Arch.dep.Yvelines, 45H 3, 2e liasse.
63	1173	Maurice	Arch.nat., LL 1599B, fol.43-45v.
64	1174	Maurice	Arch.nat., S 2137, no 10.
65	1174	Maurice	Arch.nat., L 425, no 85.
66	1174	Maurice	SMC, no 423.
67	1175	Maurice	Arch.nat., S 5095, s.n.
68	1175	Maurice	Tardif, no 666.
69	1175	Maurice	Arch.nat., S 5095, s.n.
70	1175	Maurice	Arch.nat., J 165, no 1.
71	1175	Maurice	Arch.nat., M 10, no 43.
72	1175	Maurice	Arch.nat., MM 210, fol.25-25v.
73	1176	Maurice	CGP, no 537.
74	1176	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H1, dossier I.
75	1176	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H3, 2e liasse.
76	1177	Maurice	SMC, no 441.
77	1177	Maurice	CGP, no 549.
78	1177	Maurice	CGP, no 551.
79	1178	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 40.
80	1178c	Maurice	Mortet, no 20.
81	1178c	Maurice	Arch.nat., S 1541, s.n.
82	1179	Maurice	CGP, no 570.
83	1180	Maurice	Arch.nat., S 2137, no 2.
84	1181	Maurice	CND, I, 45-6 (incompl.)
85	1182	Maurice	Gut, no 1.
86	1182	Maurice	Arch.nat., S 4190, no 7.
87	1182	Maurice	Arch.nat., L 896, no 40.
88	1182	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 52.
89	1182	Maurice	Gut, no 2.
90	1182	Maurice	Arch.nat., M 10, no 48.
91	1182	Maurice	Arch.nat., MM 210, fol.29v-30.

92	1182	Maurice	Arch.nat., S 2085, no 22.
93	1182	Maurice	Arch.nat., S 1190, no 1.
94	1183	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H2, dossier V.
95	1183	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H4, dossier II.
96	1183	Maurice	Arch.nat., S 2125A, no 9.
97	1184	Maurice	Arch.nat., S 4185A, no 19.
98	1184	Maurice	Arch.nat., S 1914, no 1.
99	1184	Maurice	Arch.nat., S 1068A, no 1.
100	1184	Maurice	Gut, no 3.
101	1184	Maurice	Arch.nat., S 2137, no 5.
102	1185	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H2, dossier I
103	1185	Maurice	Gut, no 4.
104	1185	Maurice	Arch.nat., S 2165, no 14.
105	1186	Maurice	Arch.nat., LL 1157, fol.239a.
106	1186	Maurice	Bibl.nat., lat.14679, p.1017-18.
107	1186	Maurice	Arch.nat., S 2085, no 10.
108	1186	Maurice	Arch.nat., LL 1599B, fol.68-69.
109	1187	Maurice	Arch.nat., S 2142, no 19.
110	1187	Maurice	AHD, no 28.
111	1187	Maurice	CND, I, p.46-7.
112	1187	Maurice	Gut, no 5.
113	1187	Maurice	Gut, no 6.
114	1187	Maurice	AHD, no 30.
115	1188	Maurice	Arch.nat., LL 1599B, fol.11-11v.
116	1188	Maurice	Arch.nat., S 6110, no 21.
117	1188	Maurice	Arch. dep.Val d'Oise, 2H3, 1er liasse.
118	1188	Maurice	Montmartre, p.124-5.
119	1189	Maurice	Arch.nat., S 96, no 16.
120	1189	Maurice	Arch.nat., L 895, no 1.
121	1189	Maurice	Arch.dep.Val d'Oise, 2H1, dossier IV.
122	1189	Maurice	Arch.nat., L 845, no 4.

123	1189	Maurice	Arch.nat., S 2072, no 15.
124	1189	Maurice	Arch.nat., S 398, no 4.
125	1189	Maurice	Arch.nat., L 903, no 45.
126	1189	Maurice	Gut, no 7.
127	1189	Maurice	Arch.nat., LL 1599B, fol.23v-24v.
128	1190	Maurice	Arch.nat., S 4204B1, no 7.
129	1190	Maurice	SMC, III, no 508.
130	1190	Maurice	SMC, no 513.
131	1190	Maurice	Arch.nat., L 908, no 14c.
132	1190	Maurice	Arch.nat., L 908, no 62.
133	1190	Maurice	Arch.nat., S 1177, no 6.
134	1190	Maurice	AHD, no 35.
135	1191	Maurice	Arch.nat., S 4182, no 31.
136	1191	Maurice	Arch.nat., L 460, no 19.
137	1191	Maurice	Arch.nat., M 10, no 45.
138	1191	Maurice	Arch.nat., S 1541, s.n.
139	1191-1160	Maurice	Arch.nat., L 908, no 42a.
140	1191-1160	Maurice	Arch.nat., L 908, no 42b.
141	1191-1185	Maurice	SMC, no 521.
142	1192	Maurice	Arch.nat., S 194, s.n.
143	1192	Maurice	AHD, no 39.
144	1193	Maurice	Arch.nat., S 1919, no 6.
145	1193	Maurice	Arch.nat., S 1822, no 92.
146	1193	Maurice	AHD, no 41.
147	1193	Maurice	Arch.nat., S 6661, no 2.
148	1193	Maurice	AHD, no 43.
149	1193	Maurice	Arch.nat., S 4204B1, no 67.
150	1193-1186	Maurice	SMC, no 545.
151	1194	Maurice	SMC, no 548.
152	1194	Maurice	Arch.nat., S 84, no 1 (registre), fol. 1.
153	1194	Maurice	Bibl.nat., nouv.acq.lat., 2316, no 3.

154	1194	Maurice	Arch.nat., S 6661, no 4.
155	1194	Maurice	Arch.nat., S 4184, no 70.
156	1194	Maurice	Arch.nat., L 955, no 3.
157	1195	Maurice	Arch.nat., S 2137, no 19.
158	1195	Maurice	SMC, no 549.
159	1195	Maurice	Arch.nat., S 1132A, no 8.
160	1195	Maurice	Bibl.nat., nouv.acq. lati. 2386, no 8.
161	1195	Maurice	Gut, no 10.
162	1195	Maurice	Gut, no 11.
163	1195	Maurice	Bibl.nat., nouv. acq.lat. 2316, no 4.
164	1196	Maurice	Arch.nat., S 2137, no 3.
165	1196	Maurice	AHD, no 45.
166	1196	Maurice	AHD, no 46.
167	1196	Maurice	AHD, no 47.
168	1196	Maurice	CND, II, p.114-5.
169	1196	Maurice	Arch.nat., L 908, no 56.
170	1196	Maurice	*olim Arch.dep.Seine, D 2 A1, no 84 (D. G1).
171	1196	Maurice	Mortet, no 44.
172	1196	Maurice	Bibl.nat., n.a.lat. 2316, no 5.
173	1196	Maurice	Arch.nat., S 1918, no 4.
174	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Seine-Saint-Denis, 93.70.
175	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Yvelines, 45H3, 1er liasse (M5&6).
176	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 2115A, no 26.
177	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 2168B, no 4.
178	1196-1160	Maurice	CND, I, p.52.
179	1196-1160	Maurice	Arch. dep.Val d'Oise, 2H4, dossier II.
180	1196-1160	Maurice	Arch. dep.Val d'Oise, 2H1, dossier VIII.
181	1196-1160	Maurice	Arch.nat., L 920, no 14.
182	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 2073, no 6.
183	1196-1160	Maurice	Arch.nat., L 903, no 5.
184	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 2115A, no 22.

185	1196-1160	Maurice	SGP, no 282.
186	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 4185A, no 38.
187	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 4184, no 46.
188	1196-1160	Maurice	Arch.nat., S 4184, no 69.
189	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Yvelines, 45H 19.
190	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 40 (H 70).
191	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 40 (H 72).
192	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 46 (H 132).
193	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 47 (3).
194	1196-1160	Maurice	Arch.dep.Essonnes, 63H 51.
195	1196-1160	Maurice	Arch.nat., LL 1599B, fol.46v-47v.
196	1197	Eudes	AHD, no 49.
197	1197	Eudes	Arch.nat., S 844, s.n.
198	1198	Eudes	Bibl.nat., nouv. acq. lat., 2316, no 7.
199	1198	Eudes	Arch.nat., S 1176, no 6.
200	1198	Eudes	Arch.nat., S 92, no 20.
201	1198	Eudes	Arch.nat., MM 210, fol.25v-26
202	1200	Eudes	Bibl.nat., ms.lat. 5526, fol. 60v.
203	1200	Eudes	AHD, no 55.
204	1200	Eudes	Arch.nat., L 893, no 3.
205	1200	Eudes	Arch.nat., S 4185A, no 15.

* L'acte consultable sous forme d'un fac-similé aux Arch.dep.Yvelines.

Abbreviations

AHD: BRIELE, L., éd., *Archives de l'Hôtel-Dieu de Paris (1157-1360)*, Paris, 1894.

Arch.dep: Archives départementales

Arch.nat: Archives nationales

Bibl.nat.: Bibliothèque nationale

CGP: DE LASTEYRIE, R., éd., *Cartulaire général de Paris*, Paris, 1877.

- Champeaux: DUFOUR, J., éd., *Le chartrier de la collégiale de Saint-Martin de Champeaux*, Paris, 2009.
- CND: GUERARD, B., éd., *Cartulaire de Notre-Dame de Paris*, Paris, 1850.
- Gut: GUT, C., Les actes de Maurice de Sully relatifs aux possessions parisiennes de Saint-Victor (1180-1196), dans *Huitième centenaire de Notre-Dame de Paris (Congrès des 30 mai - 3 juin 1964). Recueil de travaux sur l'histoire de la cathédrale et de l'église de Paris*, Paris, 1967, pp.35-52.
- Montmartre: DE BARTHELEMY, E., éd., *Recueil des chartes de l'abbaye royale de Montmartre*, Paris, 1883.
- Mortet: MORTET, V., Maurice de Sully, évêque de Paris (1160-96). Etude sur l'administration épiscopale pendant la seconde moitié du XII^e siècle, dans *Mémoires de la Société de l'Histoire de Paris et de l'Ile-de-France*, 16, 1889, pp.105-318.
- SGP: POUPARDIN, R., éd., *Recueil des chartes de l'abbaye de Saint-Germain-des-Prés*, Paris, 1909/13.
- SMC: DEPOIN, J., éd., *Recueil de chartes et de documents de Saint-Martin-des-Champs*, Paris/Ligugé, 1912-21.
- St-Leu: MULLER, E., éd., *Le prieuré de Saint-Leu d'Esserent. Cartulaire*, Pontoise, 1900/1901.
- Tardif: TARDIF, J., éd., *Monuments historiques*, Paris, 1866.